

ガイドリングエクステンションカテーテル先端が冠動脈内に遺残された 1 例

¹筑波メディカルセンター病院

庄司 佳代¹、大竹 康弘¹、若林 翔¹、永田 駿弥¹、海老原 夢子¹

【背景】 高度石灰化や複雑病変に対する PCI においてガイドリングエクステンションカテーテルが多用されている。今回、右冠動脈（RCA）に対する手技中に GUIDE PLUS II の先端構造が断裂し、冠動脈内に遺残した 1 例を経験したため報告する。【症例】 54 歳男性、透析歴 22 年。RCA 中間部の高度狭窄に対し PCI を施行した。RCA 入口部の Wedge 回避のため Launcher AL0.75SH でアプローチし、ロータブレーター 1.5mm を施行したが、抜去時に RCA 入口部解離を合併した。6F GUIDE PLUS II を挿入しステントを留置したが、引きが不十分なまま拡張したため近位側がカテーテル内で拡張された。抜去時に先端欠損が半明し、遺残部によるステントリコイルを認めた。【結果】 拡張不良とリコイルに対し、高圧バルーンでの段階的拡張と追加ステント留置を行い、外科的摘出を要さず手技を完遂した。【考察】 GUIDE PLUS II 先端がステント内に深く進入した状態での拡張により構造が断裂・遺残したと考えられた。遺残物はリコイルの原因となったが、高圧バルーンでの十分な拡張と追加ステントによる圧着が有効であった。【結語】 エクステンションカテーテル使用時はステント拡張前の先端位置確認の徹底が極めて重要である。デバイス遺残時も病態に応じた高圧拡張および追加ステント留置が有効な対処法となり得る。